

藤田佳三展  
空山人を見ず



2020年6月6日(土)－14(日) 会期中無休

今後日程や販売方法を変更する場合がございます。お手数ですが会期直前にネット上の案内をご確認のうえお出掛け下さい。

GALLERY  
うつわノート

料金後納  
ゆうメール

藤田佳三展 空山人を見ず

二〇二〇年六月六日(土) ～ 十四日(日) 会期中無休

営業時間 十一時～十八時 作家在廊日 六月六日(土)

今後の状況により日程や販売方法を変更する場合がございます。  
お手数ですが会期直前にネット上の案内をご確認のうえお出掛け下さい。

空山人を見ず (人気のない寂しい山には、人の姿は見えず)  
但だ聞く人語の響くを (ただどこからか人の声が響いてくるだけ)  
返景深林に入り (夕日の光が深い林の中に差し込んで)  
復た照らす青苔の上 (また青苔の上を照らしている)

「画中に詩あり詩中に画あり」に評された南画の祖でもある中国唐代の詩人・王維が詠んだ漢詩「鹿柴(ろくさい)」。教科書にも載る著名な詩ですからご存知の方も多いでしょう。この詩の題名にある「鹿」と、南画に通じる藤田さんの絵筆と、詩中の世界観を重ね合わせてみました。森閑とした景色を詠んだこの漢詩は、厄災の続く今、汚れた現代人へ静かな日を見つめ直すようにと神の啓示であるようにも思えます。

藤田佳三さんは1963年京都市生まれ。現在、京都府亀岡市で制作されています。風雅な染付や赤絵の食器で定評のある方です。通常、染付や赤絵は磁土をベースとした硬質なものが多いですが、藤田さんの場合、陶土を用いて白化粧を施した上に絵を描くことで、柔らかな印象の器に仕立てるのが特徴です。絵付けにおいては、安南手と呼ばれる滲んだような染付、宋赤絵のように余白のある絵柄など、柔らかで洒落なタッチが、日常的な食器として親近感を呼び起こすのです。本来なら京都の器づくりの経験で培われた雅な気品を主題に掲げるのですが、今回はその内に潜む詩情ある静けさに目を向けたいと思いました。実店舗での展示の見通しはまだ立ちませんが、皆様にご覧頂ける機会となることを祈るばかりです。

店主

### プロフィール

1963年 京都市生まれ  
1982年 京都市銅駝美術工芸高校修了  
1986年 京都芸術短期大学陶芸専攻科修了  
1987年 小川文彦氏に師事  
1988年 走泥社・林秀行氏に薫陶を受ける  
1990年 兵庫県丹波立杭にて修行  
1993年 京都府亀岡市にて独立開業  
2020年 現在、同地にて制作



電車：川越駅(東武東上線・JR)より徒歩25分  
本川越駅(西武新宿線)より徒歩20分  
バス：駅東口3番乗場 [小江戸名所めぐり] ～ [喜多院前]  
駅西口2番乗場 [小江戸巡回バス] ～ [喜多院]  
車：ギャラリー専用の駐車場は北側(5～8番)

